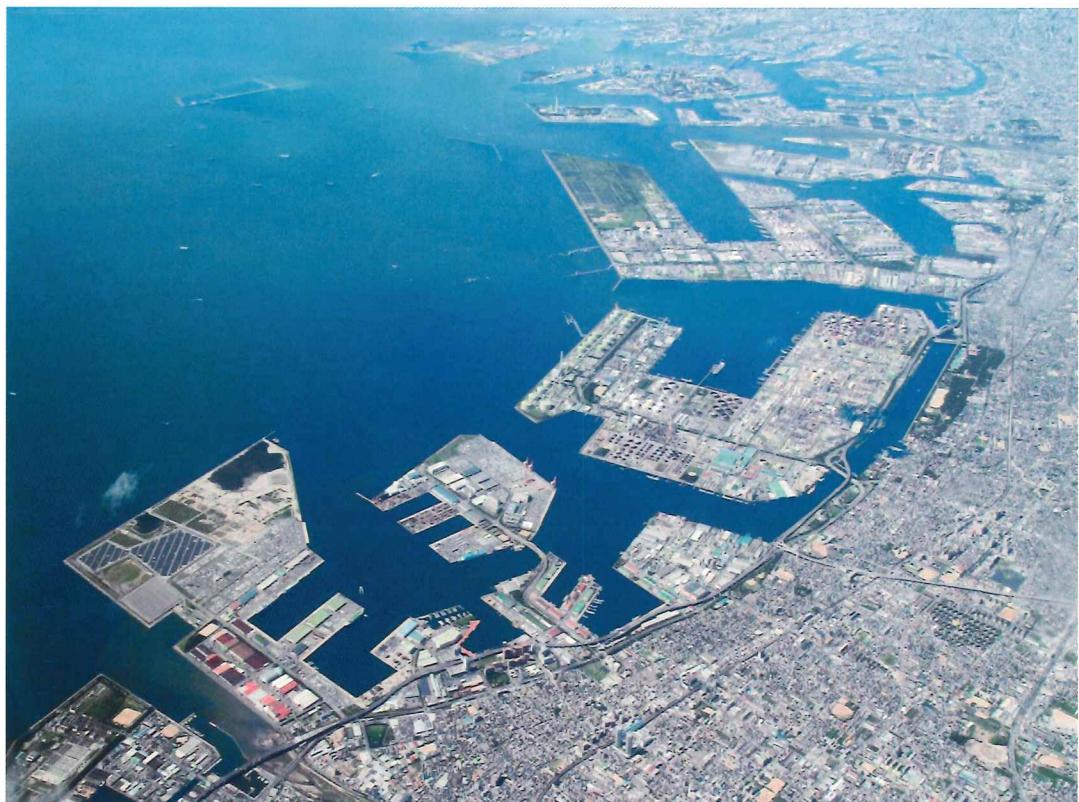


会報

第 16 号



公益社団法人 神戸海難防止研究会

THE KOBE MARINE CASUALTY PREVENTION INSTITUTE

表紙写真

堺泉北港の空撮

第五管区海上保安本部
関西空港海上保安航空基地 提供

目 次

第34回月例会概要

(1) 事業経過報告等.....	1
(2) 講演「海で学んだ日々の習慣・人間力」	
大阪市立大学大学院 創造都市研究科	
准教授　永田潤子氏	

第35回月例会概要

(1) 事業経過報告等.....	5
(2) 講演「事故分析 - 護衛艦あたご／漁船清徳丸衝突事故 - 」	
海上保安大学校	
准教授　西村知久氏	

第36回月例会概要

(1) 事業経過報告等.....	11
(2) 講演「巨大津波発生の科学と予測技術」	
徳島大学大学院 ソシオテクノサイエンス研究部	
教授　馬場俊孝氏	

事業報告

泉北製造所第二工場の新形式LNG運搬船受入に係る航行安全対策調査	
第2回委員会.....	21
四国ガス(株)徳島工場における内航LNG船の航行安全対策等検討調査	
第2回委員会.....	24
平成27年度 大阪湾における南海トラフ巨大地震津波の最大波が錨泊船舶に及ぼす影響の調査研究第3回委員会.....	28
神戸港港湾計画一部変更に伴う航行安全検討調査	
第2回委員会.....	31
平成27年度 第7回船積危険品研究委員会	34

平成27年度近畿・四国地方海難防止強調運動推進連絡会議 地区推進母体連絡会議…	38
神戸六甲東水路の暫定供用に係る意見聴取会・ビジュアル操船シミュレータ実験 及び意見聴取会…	40
新町川における船舶の航行安全検討調査現地調査…	42
新町川における船舶の航行安全検討調査第1回委員会…	45

会 務 報 告

第34回業務運営会議…	51
第35回業務運営会議…	53
第36回業務運営会議…	55
事務日誌抄…	57
お知らせ…	58
霧海難防止キャンペーンリーフレット	

第34回 月 例 会 概 要

1 日 時 平成28年1月28日(木)15:00~16:40
2 場 所 神戸市立 こうべまちづくり会館 2階ホール
3 出 席 者 37名
4 概 要

(1) 事業経過報告等

山本専務理事から事業報告及び会務報告が行われた。

(2) 講 演

大阪市立大学大学院 創造都市研究科 准教授 永田 潤子 氏により
「海で学んだ日々の習慣・人間力」と題し、講演が行われた。

《理解と共感のコミュニケーション》

リーダーの能力やスキルによって、部下が良い進言をしても、リーダーに理解力がないとその提言は受け入れられない。また、自分の部下として使いこなせない人材は使わない。

人は、刺激に対して反応し、その時、反応は数限りない選択肢から選ぶことができる。反応を選ぶ時のポイントは、自分の思考と感情を客観的に見ることのできる癖が付いているかどうかである。人間は、感情と思考が一瞬にして一緒に起き、行ったり来たりする。自分の思考と感情の反応を冷静に見る癖が付いていることによって自分の感情をコントロールしやすい。

そのように考えていくと、リーダーは、周りの人と向き合っているようで、自分の感情と向き合っているのがリーダーである。

相手から反応が起きているのではなくて、自分の感情と向き合いながら、自分の感情とどう折り合いをつけながらやっていくのかをやっているのがリーダーではないかと思う。

良くリーダーシップとは何かとか、リーダーにとって一番大事な物は何かと聞かれるが、リーダーにとって一番大事なものは心の環境整備、エネルギーのチャージであり、リーダーは、自分の感情と向き合うことをずっとやって行けば良いのではないかという話をさせてもらう。

(完)

第35回 月 例 会 概 要

- 1 日 時 平成28年2月22日(月)15:00～16:25
- 2 場 所 神戸市立 こうべまちづくり会館 2階ホール
- 3 出 席 者 30名
- 4 概 要

(1) 事業経過報告等

山本専務理事から事業報告及び会務報告が行われた。

(2) 講 演

海上保安大学校 准教授 西村 知久 氏により「事故分析 - 護衛艦あたご／漁船清徳丸衝突事故 - 」と題し、講演が行われた。

※ 本講演内容につきましては、西村先生から(一社)日本船長協会 月報「Captain」に寄稿したものを掲載するようにとのことでしたので、同協会から御了解を得て本会報に掲載しています。

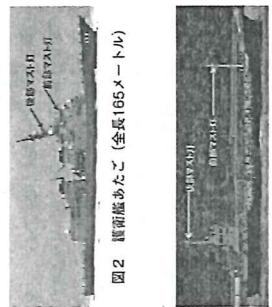


図3 一般的な貨物船のマスト灯の配置

の距離の差をとって、約30メートルと認定したものと推察します。

ここで、あたごを横から撮影した写真を図2に示します。あたごの全長は165メートルですので、艦首から85メートル後方の位置は、艦体中央よりも後方にあります。ところが必ず見ますと、あたごのマストは、明らかに艦体中央よりも前方に配置されています。つまり、地図の判決の理由に記載された後部マスト灯の位置が誤っているのです。

日本の裁判所は、原則として、裁判官は検察官と弁護人の両者から提出された証拠に基づいて争点を認定する当事者主義^⑩がとらえられています。このことを考慮すると、現在担当者（海上保安官）が後部マスト灯の艦首からの位置を誤測定し、その結果を検察官に提出し、被告人（弁護人）も実は存在せず、多くの貨物船の前後部マスト灯の水平距離は、およそ35メートル以上となっています。

このように、前後部マスト灯の水平距離が約10メートルと一般貨物船に比べて極端に狭いために、金長

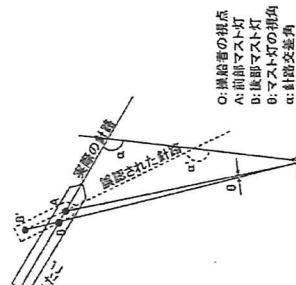


図4 針路照合に関する概念図

の距離の差をとつて、約30メートルと認定したものと推察します。

4. 探船シミュレータによる再現実験

前章では、あたごの船頭が認識される可能性について、あたごのマスト灯の配置に基づいて、幾何学的な考察をいたしました。本章では、探船シミュレータを用いて、高級が判決を宣告するために認定した、被告人に最も有利であるとする航跡を再現して、実験を行ってみます。

高級が認定したあたごから見た清轟丸の位置を表1に示します。ここで、0105灯に右転しなかった場合は、仮に清轟丸が0104灯に右転しなかつた場合の位置を示します。

0100灯のあたごの航跡は、GPS等の記録から、対地速度約106ノット、艦首方位を真方位約22度で航航していたことが特定されています。特定されているあたごの運動と表1を基にして作成した両船の航跡を図5に示します。1分間毎に算出した距離および速力には多少のばらつきはありますか、清轟丸の針路は概ね215度、並進は概ね45ノットであります。1分間に算出した距離および速力には多少のばらつきはありますか、清轟丸の針路は概ね215度、並進は概ね45ノットであります。1分間に算出した距離および速力には多少のばらつきはありますか、清轟丸の針路は概ね215度、並進は概ね45ノットであります。

あたごから見れば、清轟丸の方位は、徐々に右に（偏航方向）変化していることが分かります。また、清轟丸から見れば、あたごの方位は徐々に右に（偏航方向）変化していきます。

— 58 —

表1 あたごから見た清轟丸の位置 ^⑪		
時刻	位置	度方位
0359灯	約4700m (約215度)	直方位
0400灯	約4050m (約215度)	約14.5度
0401灯	約3450m (約19度)	約16度
0402灯	約2800m (約15度)	約13.5度
0403灯	約2150m (約12度)	約22度
0404灯	約1650m (約8度)	約20度
0405灯	約1000m (約0.5度)	約9.2度

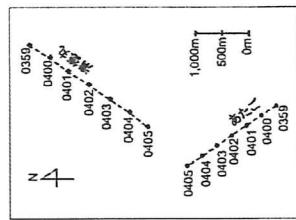


図5 あたごと清轟丸の航跡^⑫

この灯火と仮にあたごが一般的な貨物船の灯火を掲げていた場合とを比較したものです。参考までに、同じ位置における左側の見え方を併せて図8および図9に示します。両者では灯火の見え方、船の大きさ、進行方向の印象が全く異なることが理解していただけるものと思います。

海上保安庁の30メートル型漁船（PC型）の船は3名に対し、0359灯から0402灯までの清轟丸の視点から見た映像を漁船シミュレーターで連続再生したところ^⑬、あたごの灯火を表示した場合には、10名の船員が100メートル未満の船舶であると回答し、10名の船員が100メートル以上過大に（真

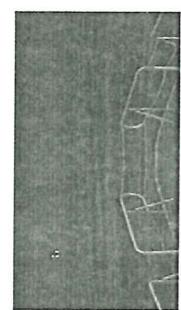


図6 清徳丸から見たあたごの灯火 (04030)

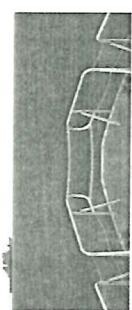


図7 清徳丸から見た貨物船の灯火 (04030)

図8 清徳丸から見た星間ににおけるあたご

向かいに近い関係に) 評価し、8名の船員が右舷することによって、つまり、組手（あたご）の船首を横切るよう進航すると回答しました。

あたごの灯火を一般的な貨物船の灯火に変えて同様の映像を再生した場合には、100メートル未満の船幅であると回答した船長は3名、実際の對面交差角よりも35度以上過大に（実向かいに近い関係に）評価した船長は2名、行動について、先の深海シミュレータによる再現実験の結果を基に考察します。

実験では、あたごの全長が過小に評価されただけでなく、あたごの對面に対する評価が確認されました。

同じ操作条件を再現しても、岩火の配置によって、運航等に関する判断が全く異なる傾向が見られました。

清徳丸の右舷計前に対する對置を12時の方

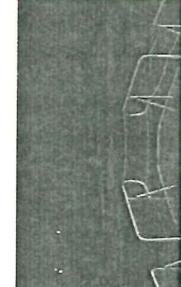


図9 清徳丸から見た星間ににおける貨物船

り、実際の対面よりもに向かっています。

これらのことと勘案すると、あたごと清徳丸の衝突は、図10に示す状況が原因として考えられます。

まず、あたごの操縦者にとっては、清徳丸の方位が右に変わっているため、このまま直進しても、清徳丸の前方を十分な距離でかわされるものと認識し、直進することになります。一方、清徳丸の操縦者にとっては、あたごの方位が右に変わっているため、自船の前方を通過することは理解できませんが、あたごの船首方位が自船の船首方位を左側とした場合、5時方向に向いているように見えることから、このままの状況が受け取れ、あたごが自船の前方を通過するようになります（このとき、清徳丸の操縦者は、相手船の船頭までは把握していないと考えます。）。

一般的に漁船は、大型船の引き波を受けることによって、漁船等が混乱することを嫌うとされています。引き波の影響を避けるには、清徳丸が自身の對路を大きく左に変え、あたごと十分な距離をとる、あるいは、あたごの船首を横切る方法が採られます。

図10に示すように、あたごが清徳丸に対し5時方向の對路をとったならば、清徳丸が對路を少し右に変えただけで、あたごの船首を客観的に、しかも、十分な距離を保つことで航行することができます。

清徳丸の右舷計前に対する對置を12時の方

も見られました。高火の測定の理由では、清徳丸の付近を航行していた漁船金城丸が「右舷した後にあわてて左舷するなど、はなはだ不自然な動きを示している」ことを挙げています。

この原因として、高火は、あたごの前後部

（左）清徳丸の右舷計前に対する對置を12時の方

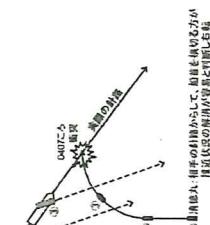
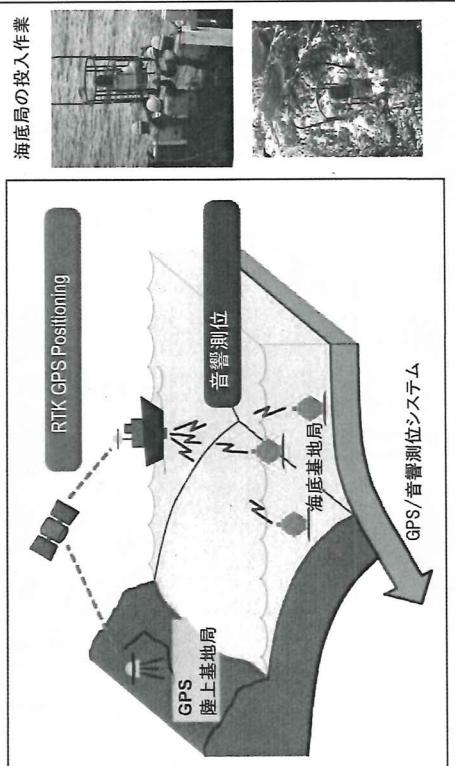


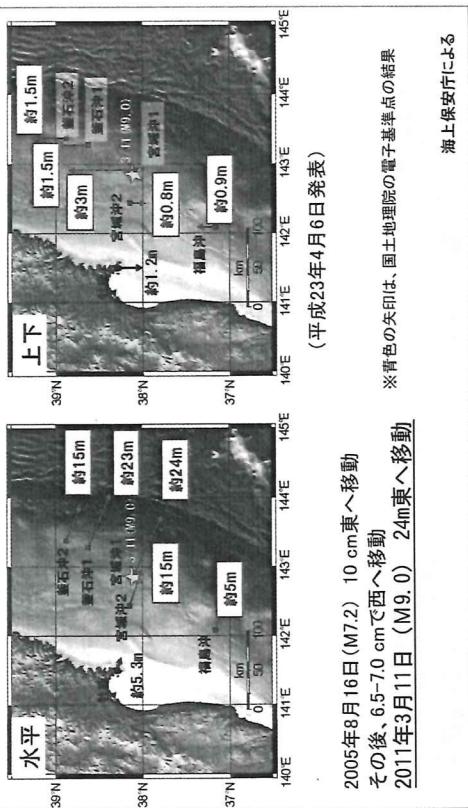
図10 衝突前の清徳丸の挙動
（左）清徳丸の右舷計前に対する對置を12時の方

GPS/音響測位による海底地殻変動観測



-14-

変動殻底海底に伴う震本



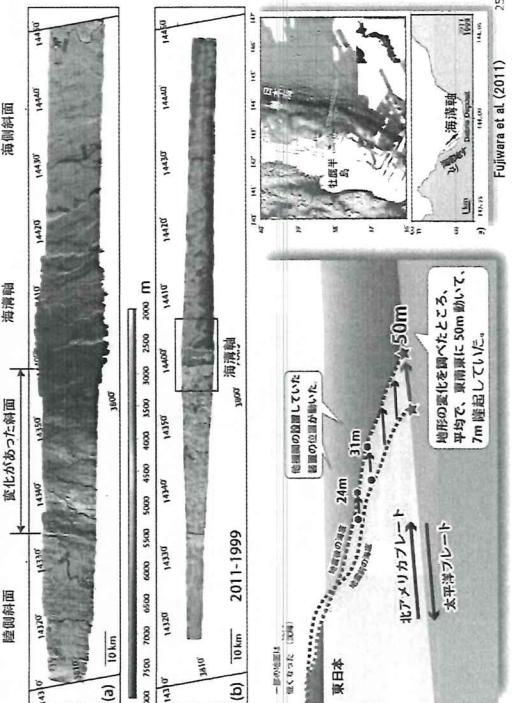
海上保安庁による

巨大津波発生の科学（東日本大震災）

- 海溝軸に達する断層のすべり
 - 海溝軸まで達するのは稀
 - 断層のずれの量は最大でなんと50m!
 - 昭和南海地震の10倍
 - これにより、広い領域の海底が最大7m起し、巨大津波が発生

26

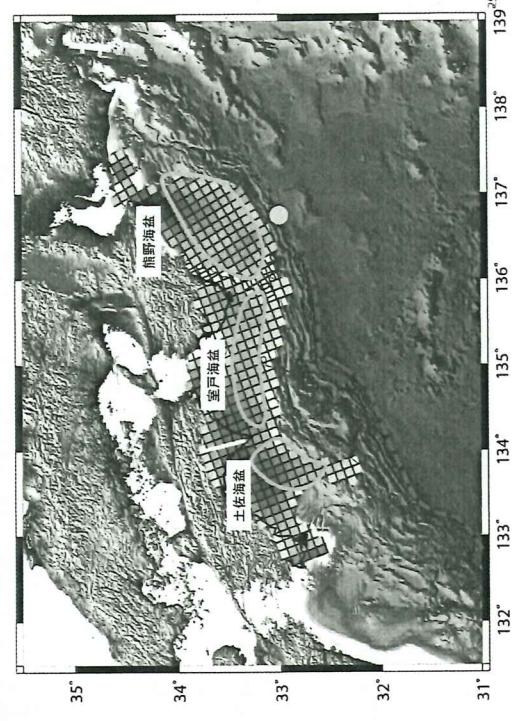
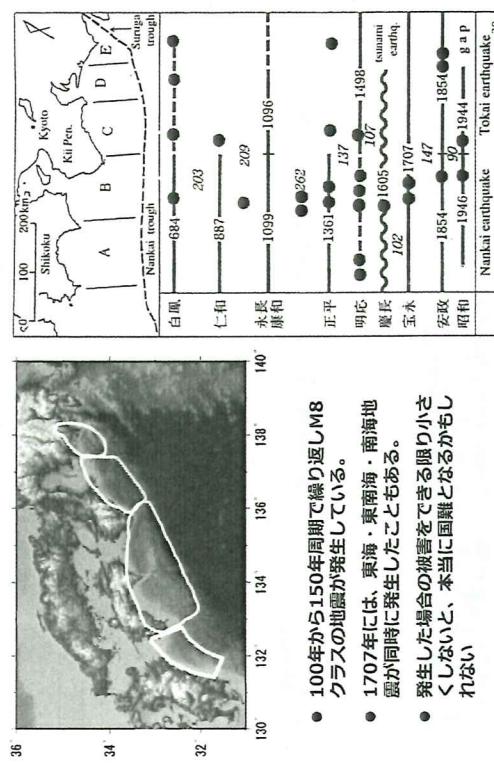
海底变位



Eliyahu et al. (2011) 75

南海トラフ巨大地震の歴史

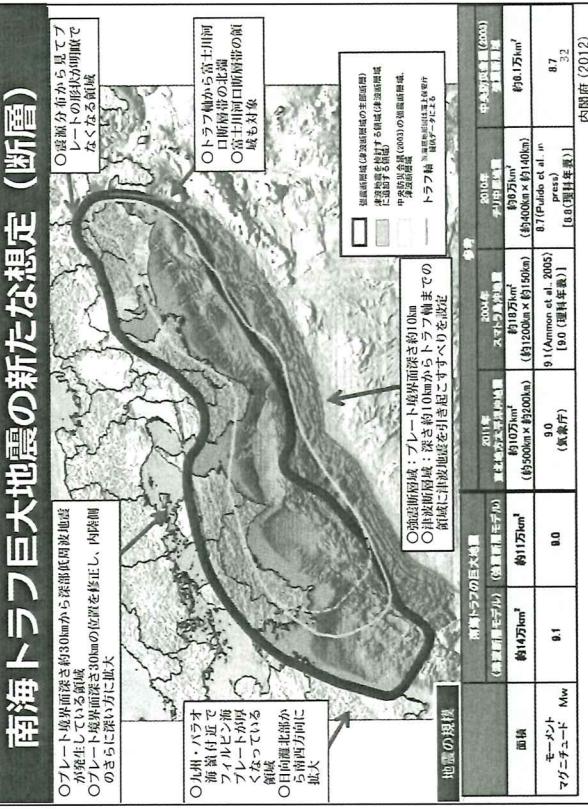
昭和東南海地震と南海地震の破壊域



海溝軸近傍プレート境界の活動痕



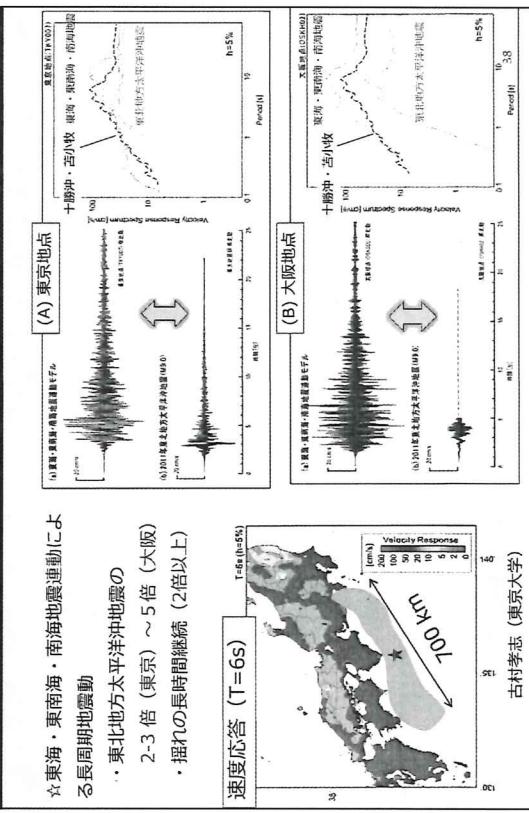
南海トラフ巨大地震の新たな想定（断層）



京コンピュータ@理化学研究所

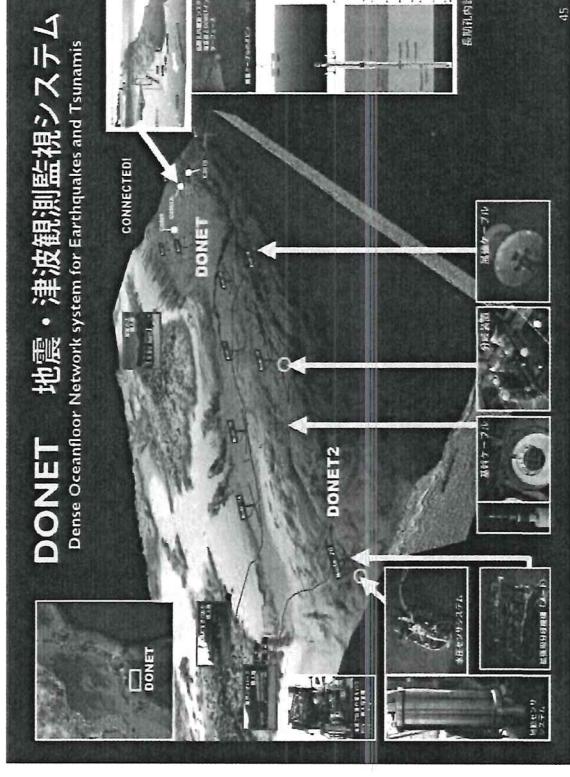
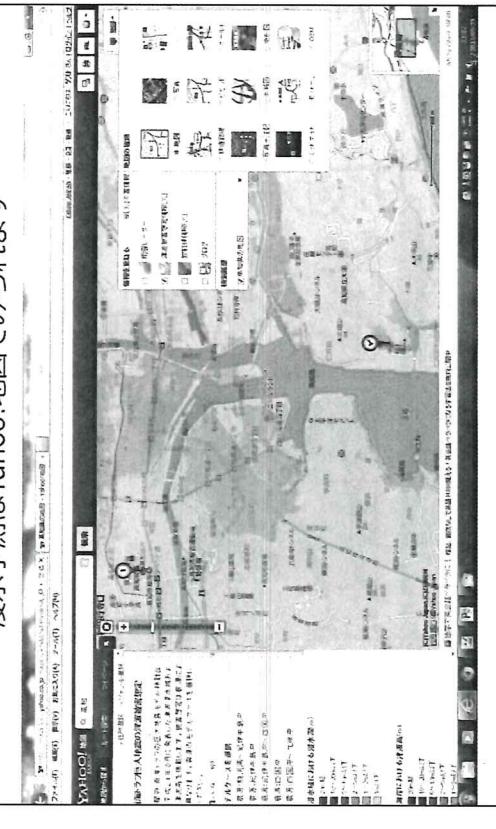


南海トラフ地震による長周期地震動



南海トラフ巨大地震の新たな想定（津波）

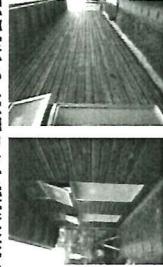
浸水予測はYahoo!地図でみられます



DONET2 陸上局

海陽町まぜのおか陸上局 ①

徳島県、海陽町のご協力により局舎完成



室戸ジオパーク陸上局 ②

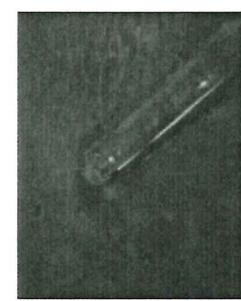
高知県、室戸市のご協力により局舎完成



両局舎とも、高压変電装置、耐雷対策、非常用発電機を装備

47

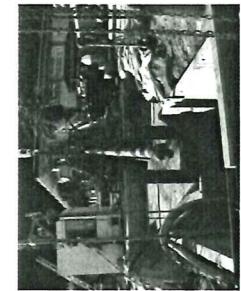
DONET2 陸揚管路設置工事・陸揚げ



海底面に達した掘削機先端ニット



基幹ケーブル陸揚げ(陸上部)
48



ハイロット掘削開始



基幹ケーブル陸揚げ(海上部)

49

DONET2構築スケジュール

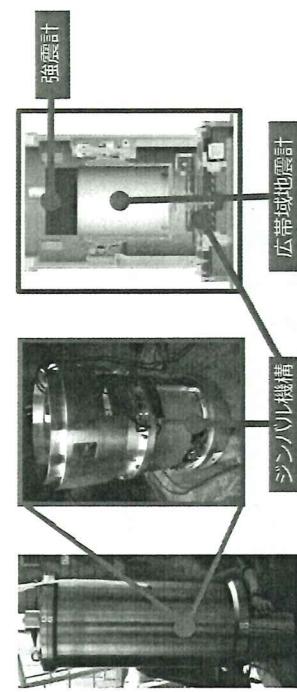
開発項目	内容	H22	H23	H24	H25	H26	H27
高電圧化	ケーブル張、観測点導入などに刈成した システム高度化						
基幹ケーブルシス テム、観測装置等 の整備	ケーブル、中継器、遮強用分岐器設置 (ノード)、地盤計、津波計等						
装置の評価試験							
海戦事前調査	基幹ケーブル等レート試験、観測機器 の設置場所の選定等に必要なデータ収集						
ケーブル敷設工事	上記事前調査等に基づくルート設計						
観測装置の設置							
陸上局舎選定	観測装置設置等						
陸上局舎整備	機能整備						
システム運用	システムの保守、データ管理・配信、 など						

25年度末： 試験運用開始
27年度末： 本格運用開始（予定）

地動センサシステム

強震計(TSA-100S)、広帯域地震計(CMG-3T.RH)

観測対象
長周期地震動
；広帯域現象
；0.001 - 0.1 Hz; $1 \times 10^{-9} \text{ m/s}^2$ - (at 0.05Hz)
微小地震
；0.1 - 100 Hz; $1 \times 10^{-7} \text{ m/s}^2$ - (at 10Hz)
大地震
；0.01 - 100 Hz; - 39.2 m/s^2 (at 10Hz)



50

圧力（津波）センサシステム

水晶水圧計、微差圧計、ハイドロフォン、温度計

観測対象 : 広帯域な現象

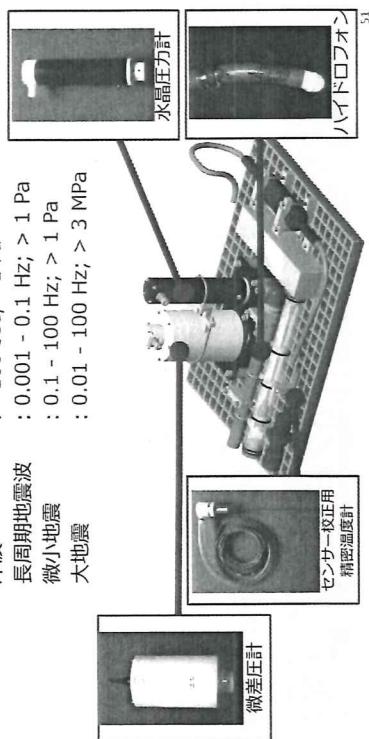
地殻 : 1day - 100 sec; > 1 Pa

津波 : - 100 sec; > 1 Pa

長周期地震波 : 0.001 - 0.1 Hz; > 1 Pa

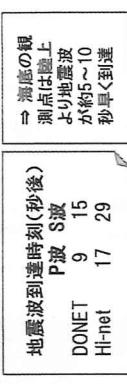
微小地震 : 0.1 - 100 Hz; > 1 Pa

大地震 : 0.01 - 100 Hz; > 3 MPa



地震の早期検知

2011/01/18 熊野灘の地震(M3.8, 深さ約50km)



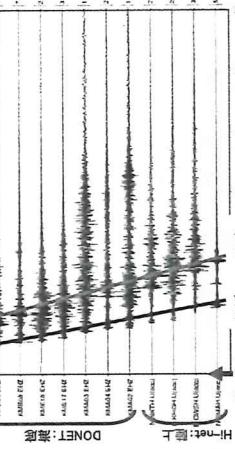
地震波到達時刻(秒後)

P波 S波

DONET 9 15

Hi-net 17 29

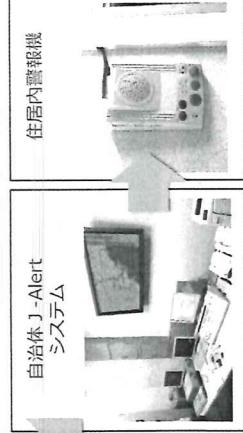
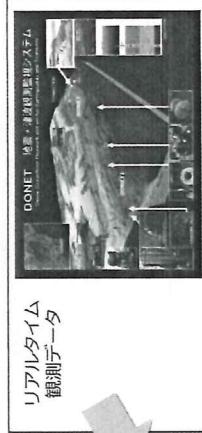
⇒ 海底の観測点は陸上より地震波が約5~10秒早く到達



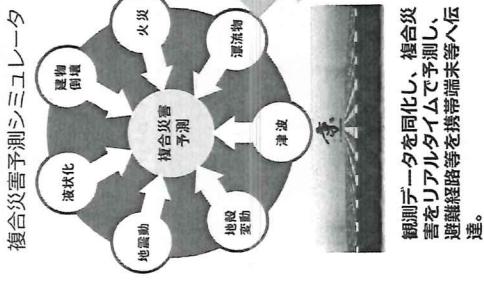
震源時 P波 S波

震源時 P波 S波

災害予測のリアルタイム発信（近い将来）



56

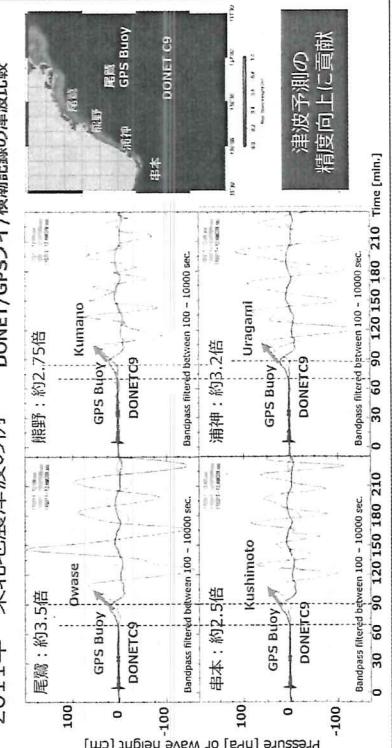


57

津波の早期検知

- ◆ 沿岸の検潮所より早く沖津波波形を検知
- ◆ 沿岸での津波波高 = 増幅率 × DONETデータ

2011年 東北地震津波の例



58

津波増幅率は、津波の入射方向や震源距離、地域によって異なる

59

泉州北製造所第二工場の新形式LNG運搬船受入れに係る航行安全対応調査
第2回委員会

1. 会議日時 平成28年1月21日(木) 13:30 ~ 15:55
2. 会議場所 神戸メリケンシートオリオンカルホテル 4階 横河の間
3. 出席者 委員会とおり
4. その他

事業報告

(5) 検討資料について

5. 検討資料

- (1) 第1回委員会議事録要(案)
(2) 検討資料委2-1 ピンチャード式船内ガスモニタリング実施結果(検討部会報告)
(3) 検討資料委2-2 保護動揺シミュレーション実施結果(検討部会報告)
(4) 検討資料委2-3 LNGタンクを用いたPSC実験的(試験)タンクカバー(さく
りんご)に関する安全技術討議(案)
(5) 検討資料委2-4 航行安全指針(案)
(6) 検討資料委2-5 便告書(案)

6. 席上配布

- (1) 席上配布1 検討資料委2-2 保護動揺シミュレーション実施結果(検討部会
報告)(Q1、Q2シートを差附)

- (2) 席上配布2 検討資料委2-4 航行安全指針(案) 座部差附

7. 他の一事

事務局による出席者の承認、資料の取扱法、会本三種、会員名により議事録が作成された。

審議終了後、施設管理課の大庭 かみ(株)ガス製造・送配事業部計画部企画チ
ームマネジャー 高原 久二 様より挨拶が行われた。

7. 審議結果

掲示された検討資料は、一部文書について委員会における意見等を盛り込み修正
することを前提に了承された。

別 紙

出 席 者 名 簿

(順不同・敬称略) ■■■■■は欠席者

※海防研常任委員

委 員 長	鈴 木 三 郎	神戸大学名誉教授※
委 員	松 本 宏 之	海上保安大学校教授※
"	藤 本 昌 志	神戸大学大学院海事科学研究科准教授※
"	堀 真 琴	大阪湾水先区水先人会会長※
"	今 西 邦 彦	(一社)日本船長協会技術顧問※
"	堤 義 晴	日本郵船(株)関西支店支店長代理※
"	國 友 雄 二	(株)商船三井海上安全部部長代理※
"	松 島 豊	川崎汽船(株)関西支店副支店長※
"	小 川 謙 二	大阪府タグ事業協同組合理事長 (同席 植村 博 専務理事)
"	松 田 和 男	堺泉北船舶安全協議会会长
関係官公庁	犬 藤 学	第五管区海上保安本部交通部長 (同席 三宅 光成 安全課長) (同席 仲田 幸生 海務第二係専門員)
"	小 島 良 二	大阪海上保安監部長 (同席 重松 吾郎 航行安全課長) (同席 大槻 昭博 第一海務係員)
"	宮 本 勝 通	堺海上保安署長 (同席 清水 景平 港務係長)
"	井 上 博 瞳	大阪府港湾局長 (代 中川 政博 計画調整課長)

施設管理者 (大阪ガス(株)ガス製造・発電事業部)

"	澤 井 弘 保	計画部海事担当部長
"	篠 原 久 二	" 基地企画チームマネジャー
"	永瀬 真 一	" 基地企画チーム課長
"	河 合 弘	泉州製造所技術チームバースマスター
"	永 尾 拓 也	" 技術チーム

関係事業者	三木 基 実	関西電力(株)燃料室海事担当部長
//	沖 雄 介	// 燃料室LNG第二グループリーダー
//	宮 本 和 明	堺LNG(株)製造部長
//	川 西 剛 伸	// 海事部長
事 務 局	山 本 幸 典	(公社)神戸海難防止研究会専務理事
//	伊 藤 雅 之	// 常務理事
//	宮 島 照 仁	// 事業部長
//	藤 原 昇	// 部長補佐
//	中 村 紳 也	(株)日本海洋科学専務取締役
//	原 大 地	// 神戸支店長
//	高 橋 浩 子	// 主任コンサルタント
//	津 村 健 司	三菱重工業(株)船舶・海洋事業部 沿海エンジニアリング部 主席技師

別 紙

出 席 者 名 簿

(順不同・敬称略) [] は欠席者

※海防研常任委員

委 員 長	淺 木 健 司	海技大学校教授 ※
委 員	廣 野 康 平	神戸大学大学院海事科学研究科准教授 ※
"	松 本 宏 之	海上保安大学校教授 ※
"	吉 岡 隆 充	海上保安大学校教授
"	木 本 弘 之	(一財)海上災害防止センター調査研究室長
"	今 面 邦 彦	(一社)日本船長協会技術顧問 ※
"	畠 知 博	小松島水先区水先人会会長
"	村 田 泰	徳島県内航海運組合理事長 (代 川崎 福重 事務局長)
"	荒 岡 悟 郎	南海フェリー(株) 管理部副部長(運航管理者)
"	清 水 俊 昭	オーシャントランス(株)船舶管理部運航担当部長
"	齊 藤 廣 志	全国内航タンカー海運組合海工務部長
"	津 田 哲 夫	全国内航タンカー海運組合葉槽船支部長 (代 永石 大機 事務局長)
関係官公序	羽 山 登志哉	第五管区海上保安本部警備救難部長 (代 中里 均 環境防災課長)
"	犬 藤 学	第五管区海上保安本部交通部長 (同席 石塚 哲夫 交通部安全課海務第二係長)
"	菊 永 純 一	徳島海上保安部長 (同席 馬場 康之 警備救難課救難係長) (同席 東本 研一 交通課安全係長) (同席 西内 孝志 交通課航行管理官)
"	田 上 明 彦	大阪湾海上交通センター所長 (同席 新富 敏隆 運用管制課長)
"	田 中 曜	神戸運輸監理部海上安全環境部長
"	岸 弘 之	徳島県国土整備部運輸戦略局長
関 係 者	【船舶運航会社】	
"	田 北 耕 平	N S ユナイテッドタンカー(株) 営業部副部長
"	江 口 秀 治	" 船舶部監督
"	伊 勢 和 史	" 船舶部安全管理室監督

関係者 【運航管理会社】

〃 中西 敬治 エヌエス・エル・サービス(株) 管理部長

〃 【エンジニアリング会社】

〃 柳楽 朋幸 日鉄住金パイプライン&エンジニアリング(株)
プラント建設事業部営業部長

〃 福元 達也 〃

プラント建設事業部ゼネラルマネージャー

〃 【積出し事業者】

〃 永瀬 真一 大阪ガス(株)ガス製造・発電事業部計画部課長

委託者 高橋 一平 四国ガス(株) 常務取締役

〃 時政 和彦 〃 企画部課長代理

〃 桑村 政宏 〃 生産本部生産技術部長心得

〃 西原 一成 〃 生産本部生産技術部次長

事務局 山本 幸典 (公社)神戸海難防止研究会専務理事

〃 伊藤 雅之 〃 常務理事

〃 宮島 照仁 〃 事業部長

〃 塔本 吉夫 〃 事業部長補佐

〃 原 大地 (株)日本海洋科学神戸支店長

〃 久下 剛也 〃 主任コンサルタント

関係官公庁 稲 田 雅 裕 近畿地方整備局港湾空港部長
(代 安達 昭宏 港湾空港整備・補償課長)
〃 井 上 博 瞳 大阪府港湾局長
(代 國森 雅彦 総務企画課 課長補佐)
事 務 局 赤 岡 隆 夫 (公社)神戸海難防止研究会会長
〃 山 本 幸 典 〃 専務理事
〃 伊 藤 雅 之 〃 常務理事
〃 宮 島 照 仁 〃 事業部長
〃 江 頭 正 人 〃 研究部長
〃 藤 原 昇 〃 部長補佐
〃 國 安 政 幸 (株)MOLマリン関西事務所長
〃 豊 島 伸 匠 〃 関西事務所主任研究員

神戸港港湾計画一部変更に伴う航行安全検討調査 第2回委員会

- 1 日 時 平成28年2月15日(月) 13:30 ~14:50
- 2 場 所 ラッセホール 地下1階 リリーの間
- 3 出 席 者 別紙のとおり
- 4 議 題
 - (1) 第1回委員会議事概要について
 - (2) ビジュアル式操船シミュレータ実験実施結果について
 - (3) 意見聴取会報告について
 - (4) 港湾計画一部変更(案)における航行安全の観点からの検討について
 - (5) 報告書構成について
- 5 資 料
 - (1) 第1回委員会議事概要(案)
 - (2) 委員会資料委2-1 ビジュアル式操船シミュレータ実験実施結果(案)
 - (3) 委員会資料委2-2 港湾計画一部変更(案)における航行安全の観点からの検討(案)
 - (4) 委員会資料委2-3 報告書構成(案)
 - (5) 参考資料 操船シミュレータ参考実験(17万総トン級客船のアジポット操船例)
- 6 議 事
事務局により出席者の紹介、資料の確認後、井上 欣三 委員長により議事が進められた。
審議終了後、委託者の近畿地方整備局 港湾空港部 港湾計画課長 島村 博 様より挨拶が行われた。
- 7 審議結果
提示された検討資料は、一部文言について委員会における意見等を盛り込み修正することを前提に了承された。

以 上

平成27年度 第7回船積危険品研究委員会

1 日 時 平成28年2月16日(火)13:30~15:10

2 場 所 商船三井ビル 4階 会議室

3 出 席 者 別紙のとおり

4 議 題

(1) 事故事例検討 クロロホルム吸引による酸素欠乏死事案

(2) 事故事例検討 硫化水素ガス吸引 2名死亡、2名負傷事案

5 資 料

(1) 検討資料7-1 船積危険品研究委員会事故事例検討資料(クロロホルム)

(2) 検討資料7-2 船積危険品研究委員会事故事例検討資料(硫化水素)

(3) 参考資料7-1 個品データ(硫化水素ナトリウム)

(4) 参考資料7-2 個品データ(アクリル酸)

席上配布

・席上配布-1 検討資料7-1 船積危険品研究委員会事故事例検討資料
(クロロホルム)

<指摘事項の修正>

6 議 事

事務局より出欠状況、資料の確認の後、三村委員長により議事が進められた。前回で検討された事故事例検討資料(クロロホルム)について取りまとめを行った。引き続き事故事例検討資料(硫化水素)の検討を行った。

以 上

別 紙

出 席 者 名 簿

(順不同・敬称略) [] は欠席者

※海防研常任委員

委 員 長	三 村 治 夫	神戸大学大学院海事科学研究科教授※
委 員	佐 藤 正 昭	神戸大学大学院海事科学研究科教授※
"	三 輪 誠	神戸大学大学院海事科学研究科講師※
"	児 玉 正 浩	(一財)海上災害防止センター西日本支所 キソ一化学分析センター長※
"	堤 義 晴	日本郵船(株)関西支店支店長代理※
"	國 友 雄 二	(株)商船三井海上安全部部長代理※ (代 白方 馨 海務監督)
"	向 末 男	日本沖荷役安全協会神戸支部専務理事・事務局長※ (代 藤原 外喜夫 安全管理部長)
"	山 根 健 次	海上技術安全研究所構造基盤技術系専門研究員
関係官公庁	徳 田 直 之	神戸運輸監理部海上安全環境部船舶安全環境課専門官
"	中 里 均	第五管区海上保安本部警備救難部環境防災課長 (代 西馬 嘉秀 第二災害対策係長)
"	三 宅 光 成	第五管区海上保安本部交通部安全課長 (代 仲田 幸生 海務第二係専門員)
"	重 松 吾 郎	大阪海上保安監部航行安全課長 (代 川端 成記 航行安全課専門官)
"	前 田 健 太	神戸海上保安部航行安全課長 (代 稲澤 敏史 航行安全課専門官)
事 務 局	伊 藤 雅 之	公益社団法人神戸海難防止研究会常務理事
"	江 頭 正 人	" 研究部長
"	藤 原 昇	" 部長補佐

平成 27 年度 近畿・四国地方海難防止強調運動推進連絡会議 地区推進母体連絡会議

1 日 時 平成 28 年 3 月 7 日 (月) 15:00 ~ 16:45

2 場 所 神戸第二合同庁舎 1 階 第 2 会議室

3 出席者名簿 別紙のとおり

4 議 題

- (1) 平成 28 年度全国海難防止強調運動における地方重点項目及び地方運動について
- (2) 霧海難防止キャンペーンについて
- (3) 業務連絡について
- (4) その他

5 資 料

資料 1 会議次第、地区推進母体構成員名簿及び出席者名簿

資料 2 平成 28 年度全国海難防止強調運動における地方重点項目及び地方運動

資料 3 霧海難防止キャンペーン

ポスター・リーフレット配布依頼文書及び配布先一覧表

6 議 事

事務局から出席者、資料の確認後、(公社)神戸海難防止研究会 山本幸典専務理事の挨拶の後、議事が進められた。

第五管区海上保安本部 交通部安全課 戸川義徳海務第一係長から資料 2、資料 3 について説明が行われた。

議題 (3) については、当日席上配布資料『海上保安庁と海難防止団体との連携について』を山本幸典専務理事から説明が行われた。

議題 (4) その他については、事務局よりポスター、リーフレット作成・配布、予算措置等に関して説明を行った。

以 上

別 紙

出席者名簿

(順不同・敬称略)

構成員 (座長)	山 本 幸 典	(公社)神戸海難防止研究会専務理事
構成員	中 末 陽 介	第五管区海上保安本部警備救難部救難課長
"	三 宅 光 成	第五管区海上保安本部交通部安全課長 (同席 北野 隆志 安全課専門官) (同席 戸川 義徳 海務第一係長) (同席 石塚 哲夫 海務第二係長) (同席 池宮 崇 海務第一係員) (同席 森谷 元希 交通部企画課企画業務係長)
"	重 松 吾 郎	大阪地区海難防止強調運動推進連絡会議実務責任者 (大阪海上保安監部航行安全課長)
"	前 田 健 太	兵庫県阪神淡路地区海難防止強調運動推進連絡会議実務責任者 (神戸海上保安部航行安全課長) (同席 八幡 恭典 航行安全課専門官)
"	谷 岡 敦	播磨地区海難防止強調運動推進連絡会議実務責任者 (姫路海上保安部交通課長)
"	渡 川 明	和歌山北部地区海難防止強調運動推進連絡会議実務責任者 (和歌山海上保安部交通課長)
"	長 澤 孝 二	紀南地区海上安全対策協議会実務責任者 (田辺海上保安部交通課長) (代 和所 正明 主任航行管理官)
"	森 本 整 吾	徳島地区海難防止強調運動推進連絡会議実務責任者 (徳島海上保安部交通課長)
"	増 井 和 英	高知地区海難防止強調運動推進連絡会議実務責任者 (高知海上保安部交通課長)
"	新 富 敏 隆	大阪湾海上交通センター運用管制課長
事務局	伊 藤 雅 之	(公社)神戸海難防止研究会常務理事
"	江 頭 正 人	" 研究部長
"	塔 本 吉 夫	" 事業部長補佐
"	藤 原 升	" 事業部長補佐
"	菱 田 憲 次	(公財)海上保安協会神戸地方本部事務局長

新町川における船舶の航行安全検討調査 現地調査

1 日 時 平成28年3月25日(金) 11:00 ~11:45

2 場 所 徳島市 沖洲マリンターミナル2階会議室

3 出 席 者 別紙のとおり

4 資 料

配布資料

- ・新町川における船舶の航行安全検討調査現地調査（沖洲マリンターミナル2F）
現地調査資料

5 調査内容、結果

沖洲マリンターミナル会議室から架橋工事予定の新町川河口海域の全景を確認するとともに徳島港11：00発 南海フェリーの離岸から回頭、出港に至までの一連の航行状況を調査し、今後の航行安全対策の参考とした。

以 上

別 紙

出 席 者 名 簿

(順不同・敬称略) [] は欠席者

※海防研常任委員

委 員	淺 木 健 司	海技大学校教授 ※
//	市 川 義 文	海技大学校教授 ※
//	松 本 宏 之	海上保安大学校教授 ※
//	今 西 邦 彦	(一社)日本船長協会技術顧問 ※
//	畠 知 博	小松島水先区水先人会会长
//	村 田 泰	徳島県内航海運組合理事長 (代 川崎 福重 事務局長)
//	門 田 光 司	南海フェリー(株)常務取締役管理部長(安全統括管理者) (同席 荒岡 悟郎 管理部副部長(運航管理者)) (同席 郡 憲二 船長)
//	清 水 俊 昭	オーシャントランス(株)船舶管理部運航担当部長
//	熊 野 健 治	住友大阪セメント(株)販売部長 (同席 谷 真史 東海運(株)取締役)
//	斎 藤 洋	全日本海員組合中四国支部長
//	笠 井 満	(公社)関西小型船安全協会理事徳島県支部長
関係官公庁	犬 藤 学	第五管区海上保安本部交通部長 (代 大田 勝郎 企画調整官) (同席 仲田 幸生 安全課専門員)
//	菊 永 純 一	徳島海上保安部長 (代 福田 恵二 次長) (同席 森本 整吾 交通課長) (同席 植村 勝広 交通課航行管理官付)
//	安 部 賢	四国地方整備局港湾空港部長 (代 佐野 正佳 小松島港湾・空港整備事務所長) (同席 高木 耕造 小松島港湾・空港整備事務所工務課長)
//	小 谷 一 雄	近畿運輸局海上安全環境部長 (代 大谷 忠 調整官) (同席 吉武 慎二 次席運航労務監理官) (同席 生駒 達也 和歌山運輸支局運航労務監理官)

別 紙

出 席 者 名 簿

(順不同・敬称略) [] は欠席者

※海防研常任委員

委 員 長	淺 木 健 司	海技大学校教授 ※
委 員	市 川 義 文	海技大学校教授 ※
〃	松 本 宏 之	海上保安大学校教授 ※
〃	今 田 邦 彦	(一社)日本船長協会技術顧問 ※
〃	畠 知 博	小松島水先区水先人会会長
〃	村 田 泰	徳島県内航海運組合理事長 (代 川崎 福重 事務局長)
〃	門 田 光 司	南海フェリー(株)常務取締役管理部長 (安全統括管理者) (同席 荒岡 悟郎 管理部副部長 (運航管理者)) (同席 郡 憲二 船長)
〃	清 水 俊 昭	オーシャントランス(株)船舶管理部運航担当部長
〃	熊 野 健 治	住友大阪セメント(株)販売部長 (同席 谷 真史 東海運(株)取締役)
〃	斎 藤 洋	全日本海員組合中四国支部長
〃	笠 井 満	(公社)関西小型船安全協会理事 徳島県支部長
関係官公庁	犬 藤 学	第五管区海上保安本部交通部長 (代 大田 勝郎 企画調整官) (同席 仲田 幸生 安全課専門員)
〃	菊 永 純 一	徳島海上保安部長 (代 福田 恵二 次長) (同席 森本 整吾 交通課長) (同席 植村 勝広 航行管理官付)
〃	安 部 賢	四国地方整備局港湾空港部長 (代 佐野 正佳 小松島港湾・空港整備事務所長) (同席 高木 耕造 小松島港湾・空港整備事務所 工務課長)
〃	小 谷 一 雄	近畿運輸局海上安全環境部長 (代 大谷 忠 海上安全環境部調整官) (同席 吉武 慎二 海上安全環境部次席運航労務監理官)
〃	岸 弘 之	徳島県国土整備部運輸戦略局長 (同席 川口 陽一郎 運輸政策課 企画担当 課長補佐)

委託者	竹島 瞳	徳島河川国道事務所 所長
"	檜田 幸伸	" 副所長
"	武田 融昌	" 事業対策官
"	四宮 新治	" 道路調査第二課 課長
"	三好 健一	" 道路調査第二課 専門官
"	本田 彩	" 道路調査第二課 係長
"	中川 隆	" 道路調査第二課 技術員
"	山下 哲央	徳島県国土整備部運輸戦略局高規格道路課
関係者	(西日本高速道路(株) 四国支社及び関係者)	
"	村里 創	徳島工事事務所 徳島南工事区 徳島南工事長
"	佐藤 元彦	" 徳島南工事主任
"	田代 翔大	" 徳島南工事技師
関係者	山本 弘和	セントラルコンサルタント(株)構造橋梁グループ長
"	追谷 健吾	三井共同建設コンサルタント(株)道路・橋梁事業部長
"	椎葉 英敏	" チームリーダー
事務局	山本 幸典	(公社)神戸海難防止研究会専務理事
"	伊藤 雅之	" 常務理事
"	宮島 照仁	" 事業部長
"	江頭 正人	" 研究部長
"	塔本 吉夫	" 事業部長補佐
"	藤原 昇	" 事業部長補佐
"	原 大地	(株)日本海洋科学神戸支店長
"	島津 雅納	" 主任コンサルタント
"	久下 剛也	" 主任コンサルタント
"	平田 裕一	" 主任コンサルタント

会務報告

第34回 業務運営会議

1 日 時 平成28年1月20日(水)12:00~12:40

2 場 所 商船三井ビル 4F 会議室

3 出 席 者 (順不同・敬称略)

議長	赤岡 隆夫	(公社)神戸海難防止研究会会长
代表理事	松浦 浩三	(公社)神戸海難防止研究会副会長
業務執行理事	山本 幸典	(公社)神戸海難防止研究会専務理事
//	伊藤 雅之	(公社)神戸海難防止研究会常務理事

構成員	久保 雅義	神戸大学名誉教授
//	大泉 勝	内海水先区水先人会会長
//	堀 真琴	大阪湾水先区水先人会会長
//	小島 茂	(一社)日本船長協会会長 (代 今西 邦彦 技術顧問)
//	稻岡 俊一	(株)商船三井執行役員 (代 國友 雄二 海上安全部長代理)
//	門野 英二	川崎汽船(株)専務執行役員 (代 松島 豊 関西支店副支店長)
//	酒井 隆司	日本郵船(株)関西支店長 (代 堤 義晴 関西支店支店長代理)
//	改発 康一	(公社)神戸海難防止研究会監事

事務局	板坂 茂良	(公社)神戸海難防止研究会総務部長
//	宮島 照仁	(公社)神戸海難防止研究会事業部長
//	江頭 正人	(公社)神戸海難防止研究会研究部長
//	藤原 昇	(公社)神戸海難防止研究会部長補佐

4 議題

- (1) 業務報告等について
- (2) その他

5 資料

席上配布

資料1 業務報告等

6 議事概要

赤岡議長の挨拶があり、引き続き議事に入った。

議題（1）業務報告等について、山本業務執行理事から説明があり、特に意見はなかった。議題（2）その他について、新規受託事業の概要について山本業務執行理事及び伊藤業務執行理事から説明があり、特に意見はなかった。次回の業務運営会議等の開催予定日について説明があった。

以上

第35回 業務運営会議

1 日 時 平成28年2月17日(水)12:00~12:25

2 場 所 商船三井ビル 4F 会議室

3 出 席 者 (順不同・敬称略) [REDACTED] は欠席者

議 代 表 理 事 長	赤 岡 隆 夫	(公社)神戸海難防止研究会会長
代表理事	松 浦 浩 三	(公社)神戸海難防止研究会副会長
業務執行理事	山 本 幸 典	(公社)神戸海難防止研究会専務理事
"	伊 藤 雅 之	(公社)神戸海難防止研究会常務理事
構 成 員	久 保 雅 義	神戸大学名誉教授
"	大 泉 勝	内海水先区水先人会会长
"	堀 真 琴	大阪湾水先区水先人会会长
"	小 島 茂	(一社)日本船長協会会长
"	稻 岡 俊 一	(株)商船三井執行役員
"	門 野 英 二	川崎汽船(株)専務執行役員 (代 松島 豊 関西支店副支店長)
"	酒 井 隆 司	日本郵船(株)関西支店長
"	改 発 康 一	(公社)神戸海難防止研究会監事
事 務 局	宮 島 照 仁	(公社)神戸海難防止研究会事業部長
"	江 頭 正 人	(公社)神戸海難防止研究会研究部長
"	奥 野 忠 裕	(公社)神戸海難防止研究会総務部長代理
"	藤 原 昇	(公社)神戸海難防止研究会部長補佐

4 議 題

(1) 業務報告等について

(2) その他

5 資 料

席上配布

資料1 業務報告等

6 議事概要

赤岡議長の挨拶があり、引き続き議事に入った。

議題（1）業務報告等について、山本業務執行理事から説明があり、特に意見はなかった。議題（2）その他について、次回の業務運営会議等の開催予定日について説明があった。

以上

第36回 業務運営会議

1 日 時 平成28年3月15日(火)12:00~12:30

2 場 所 商船三井ビル 4F 会議室

3 出 席 者 (順不同・敬称略) [REDACTED] は欠席者

議 代 表 理 事 長	赤 岡 隆 夫	(公社)神戸海難防止研究会会長
代 表 理 事	松 浦 浩 三	(公社)神戸海難防止研究会副会長
業務執行理事	山 本 幸 典	(公社)神戸海難防止研究会専務理事
〃	伊 藤 雅 之	(公社)神戸海難防止研究会常務理事

構 成 員	久 保 雅 義	神戸大学名誉教授
〃	大 泉 勝	内海水先区水先人会会长
〃	堀 眞 琴	大阪湾水先区水先人会会长
〃	小 島 茂	(一社)日本船長協会会长 (代 今面 邦彦 技術顧問)
〃	稻 岡 俊 一	(株)商船三井執行役員 (代 國友 雄二 海上安全部長代理)
〃	門 野 英 二	川崎汽船(株)専務執行役員 (代 松島 豊 関西支店副支店長)
〃	酒 井 隆 司	日本郵船(株)関西支店長 (代 堤 義晴 関西支店支店長代理)
〃	改 発 康 一	(公社)神戸海難防止研究会監事
事 務 局	板 坂 茂 良	(公社)神戸海難防止研究会総務部長
〃	宮 島 照 仁	(公社)神戸海難防止研究会事業部長
〃	江 頭 正 人	(公社)神戸海難防止研究会研究部長
〃	藤 原 昇	(公社)神戸海難防止研究会部長補佐

4 議 題

- (1) 業務報告等について
- (2) 平成28年度常任調査研究委員の委嘱について
- (3) その他

5 資 料

席上配布

資料1 業務報告等

資料2 常任調査研究委員名簿

6 議事概要

赤岡議長の挨拶があり、引き続き議事に入った。

議題（1）業務報告等について、山本業務執行理事から説明があり、特に意見はなかった。議題（2）平成28年度常任調査研究委員の委嘱について、山本業務執行理事から説明があり、特に意見はなかった。議題（3）その他について、次回の業務運営会議等の開催予定日について説明があった。

以上

○ 事務日誌抄

(H28. 1. 1～H28. 3. 31)

月 日	曜 日	時 間	委 員 会 名	実 施 場 所
1. 20	(水)	1200	第34回業務運営会議	商船三井ビル4F会議室
1. 21	(木)	1330	泉北製造所第二工場の新形式LNG運搬船受入 れに係る航行安全対策調査第2回委員会	神戸メリケンパークオリエンタルホテル
1. 28	(木)	1500	第34回月例会	こうべまちづくり会館
2. 5	(金)	1330	四国ガス(株)徳島工場における内航LNG船の 航行安全対策等検討調査第2回委員会	神戸メリケンパークオリエンタルホテル
2. 8	(月)	1400	平成27年度大阪湾における南海トラフ巨大地震 津波の最大波が錨泊船舶に及ぼす影響の調査 研究第3回委員会	ラッセホール
2. 15	(月)	1330	神戸港港湾計画一部変更に伴う航行安全検討 調査第2回委員会	ラッセホール
2. 16	(火)	1330	平成27年度第7回船積危険品研究委員会	商船三井ビル4F会議室
2. 17	(水)	1200	第35回業務運営会議	商船三井ビル4F会議室
2. 22	(月)	1500	第35回月例会	こうべまちづくり会館
3. 7	(月)	1500	平成27年度近畿・四国地方海難防止強調運動 推進連絡会議 地区推進母体連絡会議	第二合同庁舎1F会議室
3. 8	(火)	1500	第36回月例会	こうべまちづくり会館
3. 14	(月)	1000	神戸六甲東水路の暫定供用に係る意見聴取会 ビジュアル式操船シミュレータ実験及び意見 聴取会	神戸大学シミュレーションセンター
3. 15	(火)	1200	第36回業務運営会議	商船三井ビル4F会議室
3. 25	(金)	1100	新町川における船舶の航行安全対策検討調査 第1回委員会・現地調査	ホテル千秋閣・沖洲マリンターミナル

○ お 知 ら せ

平成28年4月1日～6月30日の間「霧海難防止キャンペーン」が実施されています。

4月1日
►6月30日

近畿・四国地方 海上油難撲滅運動 緊急実行委員会

海のもしもは
118番

近畿・四国地方海難防止強調運動推進連絡会議

事務局：公益社団法人 神戸海難防止研究会
公益財団法人 海上保安協会神戸地方本部

霧五戒してますか？

Five Requests to Navigation in The Dense Fog

1. 気象状況を早期に把握すべし Grasp weather conditions early

最新の気象・海象情報を把握しましょう。
Grasp the latest weather condition.



2. 船舶間コミュニケーションを促進すべし

VHFや汽笛信号等を活用する Keep watch on VHF(ch16)
大阪湾海上交通センターから、通航船舶の安全のため緊急に情報を
提供することがあります。
視界の状況に関係なく、常時VHF電話(ch16)を聴守しましょう。
Vessels navigating through Akashi Kaikyo and the adjoining area
are requested to keep watch on VHF(ch16), regardless of the
state of visibility, for Osaka Wan Traffic Advisory Service Center
may provide urgent traffic information for maritime traffic safety.

3. 航法を守るべし Observe conduct of vessels in restricted visibility

見張り強化(船橋当直の増員)、レーダーの適切な使用、安全な速力での
航行、音響信号の励行、機関用意、早期の適切な避航。
Keep a sharp lookout (increase in personnel), Use radar suitably,
Proceed at safe speed, Use sound signals, Stand-by engine,
Take early action to avoid collision observing good seamanship.

4. 自動操舵装置を適正に使用すべし Use an automatic pilot properly

視界制限状態になつたら、速やかに手動操舵に切り替えましょう。
Start manual steerage promptly in or near the area of
restricted visibility.



5. 早期に避泊すべし Anchor early in the safe sea area

無理な航行・操業を止め、視界の回復を待ちましょう。
Anchor early in safe area, and wait for the recovery of visibility.

霧通報

明石海峡、友ヶ島水道、鳴門海峡、阪神・姫路・和歌山下津
各港において視程が2,000メートル以下となった場合、随時
放送しています。
VHFch12、国際・日本語ナブテックス
AIS情報、五管区内の各海上保安部MICS(HP)

大阪湾海上交通センターからの情報提供

VHFch14、ch22
ラジオ放送1651kHz(日本語)、2019kHz(英語)
TEL:0799-82-3040
HP:<http://www6.kaiho.mlit.go.jp/osakawan/>
※ 携帯電話からのアクセス HP:<http://www6.kaiho.mlit.go.jp/osakawan/m/>

船舶気象通報中短波無線放送

大阪、潮岬、足摺岬、室戸岬における気象・海象1670.5kHz

船舶気象通報

[テレフォンサービス]
(大阪湾及び播磨灘) ... TEL:078-334-2177
(徳島県沿岸) TEL:0739-23-3177
(和歌山県沿岸) TEL:0885-35-1177
(高知県沿岸) TEL:088-837-8177

FOG INFORMATION

When the visibility in Akashi Kaikyo, Tomogashima Suido, Naruto
Kaikyo and Port of Hanshin, Himeji, Wakayama-Shimotsu is reduced
less than 2,000 meters, Fog information is broadcasted as follows.
1.F3E 156.7MHz(CH12) in English
2.NAVTEX
3.AIS information

INFORMATION from Osaka Wan Traffic Advisory Service Center

1.F3E 156.7MHz(CH14), 161.7MHz(CH22) in English
2.H3E 2,019kHz Every hour 00-15 min and 30-45 min in English

[MICS情報(沿岸域情報提供システム)]

- パソコン
<http://www6.kaiho.mlit.go.jp/05kanku/>
- 携帯電話
<http://www6.kaiho.mlit.go.jp/m/index.html>



リンク先バーコード